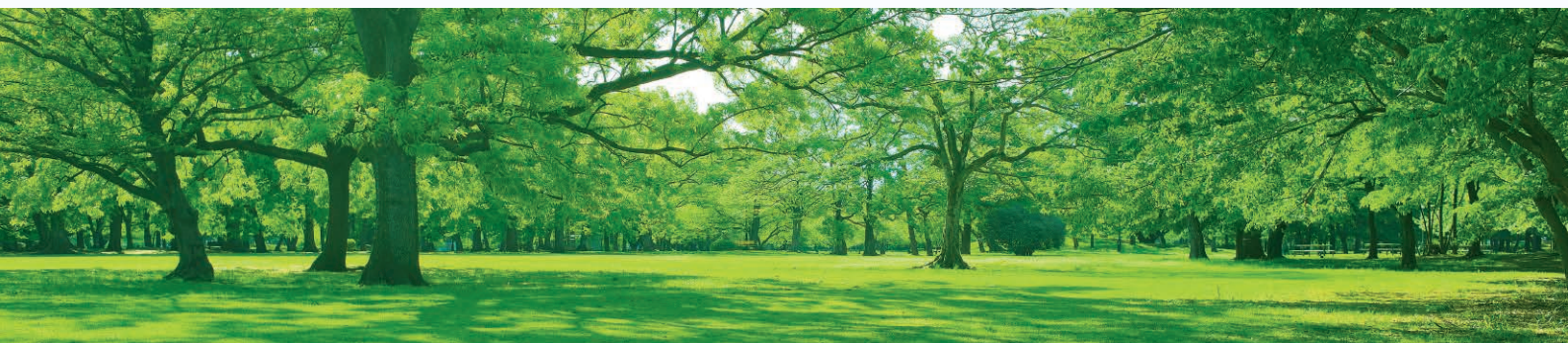


TAOKA

2020 統合報告書



田岡化学工業株式会社

Harmonic Chemicals

An organic harmony of Lifestyles,
Chemistry and the Environment

人と化学、そして環境との
美しい調和をめざして



トップメッセージ	2
価値創造フロー図	3
事業モデルとSDGs	5
田岡化学工業の概要	7
特集 気候変動に対する当社の取り組み	8
News Topics	9
財務ハイライト・非財務ハイライト	11
レスポンシブル・ケア (RC) 活動	13
環境保全	14
労働安全衛生	23

保安防災	24
従業員への責任	25
コーポレートガバナンス体制	27
コンプライアンスへの取り組み	28
工場・関連会社の取り組み	29

統合報告書の対象範囲

対 象 組 織 田岡化学工業株式会社

対 象 期 間 2019年4月1日～2020年3月31日

お 問 合 せ 先 本社 総務人事室

TEL. 06-7639-7400(代) FAX. 06-7639-7404

ホームページ <https://www.taoka-chem.co.jp>

トップメッセージ

取締役社長 佐藤 良



2020年度の統合報告書をお届けいたします。平素より私たち田岡化学に温かいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、これまで年間の全事業活動をレスポンシブル・ケアの視点から総括し、「レスポンシブル・ケア報告書」としてお届けしてまいりましたが、ステークホルダーの皆様は当社への理解を一層深めていただくとともに、当社のビジネスモデル、戦略および実績を財務／非財務の両面から総合的に報告させていただくことを目的として、本年度から統合報告書を作成することにいたしました。

当社の経営理念

田岡化学は、化学技術を基盤として時代が求める新たな価値を創造し、最適を追求した化学製品を社会に供給することで、快適で豊かな暮らしの実現と社会の持続的な発展に貢献します。

当社はこの経営理念に従い、1934年の創立以来今まで、社会のニーズに呼応した様々な化学製品の開発・製造・販売を通じて、お客様・株主・地域社会・従業員などあらゆるステークホルダーに対して価値を提供し、健康で快適な社会の発展に貢献すべく事業を展開してまいりました。現在当社は、最新の有機合成化学と長年にわたり培ってきた製造技術をベースに、医薬品中間体、高機能性樹脂モノマー、電子材料、ゴム添加剤、高機能接着剤、ワニス、可塑剤など、幅広い化学製品を供給しております。これらの化学製品は、顧客メーカーにより医薬・農業、電化製品の部品、携帯電話のカメラレンズ、食品のラップフィルム、タイヤ、被覆電線等の原材料として使用され、皆様の生活の様々な場面で活用されています。

当社は、経営理念に基づく経営基本方針を定め、この基本方針に基づいて開発・生産・販売される当社の製品および事業を「ハーモニックケミカルズ」と総称しており、当社は、ハーモニックケミカルズを追求し、持続的な成長と会社価値の向上を目指してまいります。

本報告書は、主として2019年度における当社の事業展開ならびにレスポンシブル・ケア活動の取り組みを、2020年度統合報告書としてまとめたものです。当社は2018年度を最終年度とする前中期経営計画「ALL TAOKA VISION 2020」の目標をほぼ計画通り達成し、新たに2023年に目指すべき田岡化学グループのビジョンとして新中期経営計画「ATV-2020+ (ALL TAOKA VISION 2020 PLUS)」を定めました。

中期経営計画の初年度である2019年度は、積極的な拡販努力、製造合理化等の業績改善に注力した結果、概ね2019年度の当初計画を上回ることができました。

今後の経済見通しについては、新型コロナウイルスにより引き起こされた世界的な経済活動の停滞、貿易摩擦および深刻化している地球温暖化など、今後も多くの不安定要因を抱え、先行きを見通すことが困難な状況が続くものと思われます。

この一方で、デジタル・トランスフォーメーションの進展、リモートワークの増加、SDGsに向けた企業活動への期待等、社会の大きな変革のうねりが起こりつつあり、当社においても、コロナ禍に対応した新しい勤務様式を活かしながら、かねてより取り組んできた働き方改革を加速していくとともに、新たな事業機会を追求していきたいと考えております。

また、新中期経営計画「ATV-2020+」のもと、すべての面で一段高いレベルの会社にステップアップすることを目指すこととし、製造拠点の強化、新製品開発、研究開発の強化、海外事業の拡大などに取り組み、全社を挙げて更なる業績改善に注力してまいります。

すべてのステークホルダーの皆様のご期待に沿えますよう、事業を展開してまいりますので、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

2020年10月

ハーモニックケミカルズ 価値創造フロー図

INPUT

最新の
有機合成技術と
長年の経験に基づく
製造技術

品質改良や
製法改良等、
市場ニーズに応える
研究開発

住友化学グループ
としての
シナジー

事業活動

環境や安全に配慮した化学品の
製造とノウハウの提供



機会とリスク

社会課題の解決

- 環境問題
- 食糧問題
- 資源・エネルギー問題

Quality of Lifeの向上

- 豊かでやさしい社会の実現
- 心地よい暮らし
- 健康増進

田岡化学は、化学技術を基盤として時代が求める新たな価値を創造し、
最適を追求した化学製品を社会に供給することで、
快適で豊かな暮らしの実現と社会の持続的な発展に貢献します。

OUTPUT

精密化学品

医薬中間体



樹脂原料



農薬中間体



樹脂原料



合成染料



機能材

添加剤



接着剤

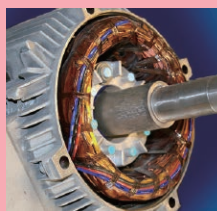


機能樹脂

紙用加工樹脂



ワニス



化成品

可塑剤



OUTCOME

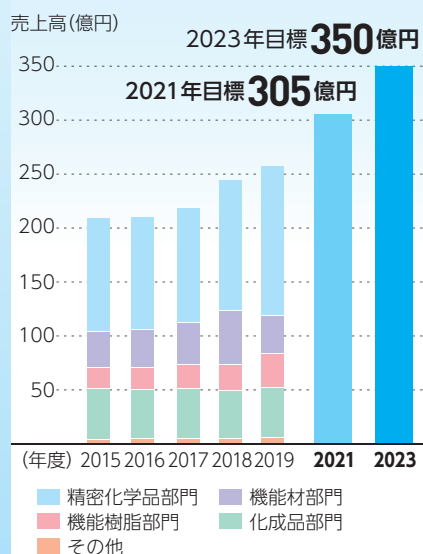
2023年のありたい姿

グローバル経済・社会の変化に
柔軟に対応しながら、
経営理念に基づく事業展開により
快適で豊かな暮らしの実現に
貢献する企業グループ
社会に必要とされ持続的な成長を続ける
まとまりのある企業グループ

2019～2021年度
新中期経営計画

ATV-2020+
Action for Targets of Vision 2020 Plus

- 連結売上高 300億円+ (以上)
- 営業利益 25億円+ (以上)
- 新製品化率 20%+ (継続)
- 海外事業比率 20%+ (以上)
- 投下資本利益率 (ROIC) 10%+ (以上)



ハーモニックケミカルズを生み出す 事業モデルとSDGs



経 済 Economy

事業を通じ、世界水準の化学技術と独創性のある化学製品で、社会を豊かにします。

社 会 Society

社会の一員として、地域コミュニティーをはじめすべてのステークホルダーとのよりよい関係を築きます。



温室効果
ガスの削減

→ 特集 P.8



夏休みおもしろ工作教室

環 境 Environment

製品のライフサイクルすべてにおいて安全・環境・品質・健康を確保します。



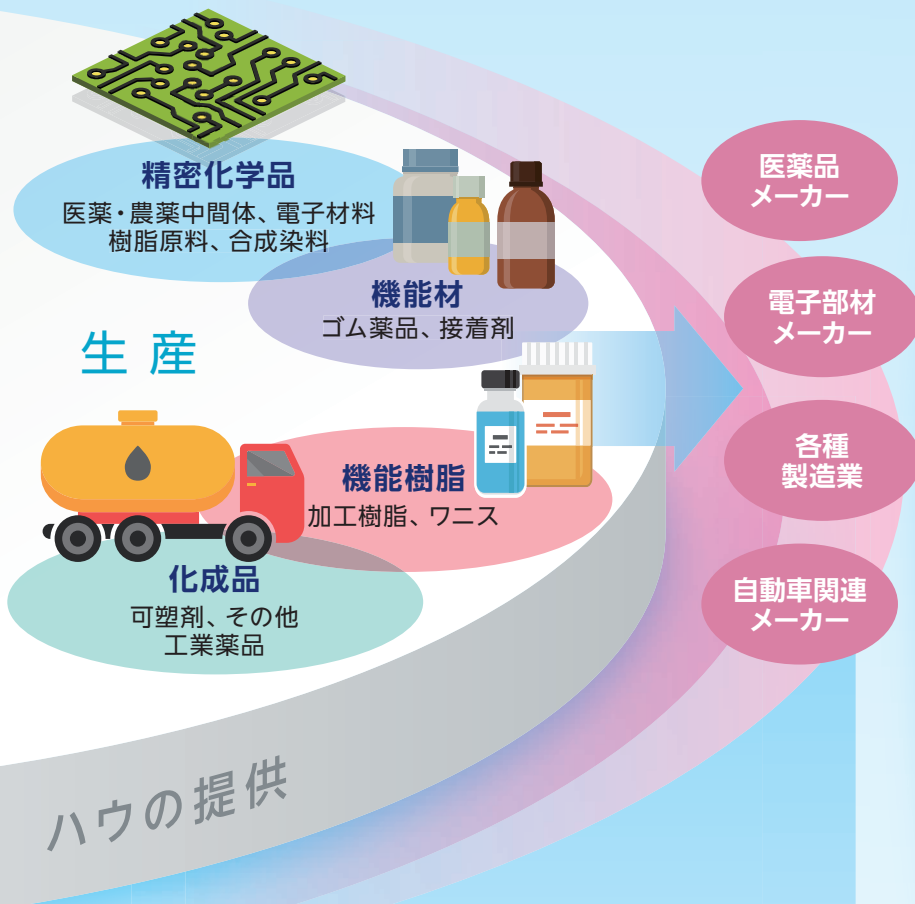
ISO14001自覚教育 (DVD視聴)



田岡化学分析センターによる各種環境分析

田岡化学は、経営理念に基づき、事業を通じて
 快適で豊かな暮らしの実現と社会の持続的な発展に貢献することにより、
 国連の「持続的な開発目標 (SDGs)」に貢献します。

人々の暮らしや 産業への貢献



→ P.23~26



→ P.13~22

田岡化学工業の概要

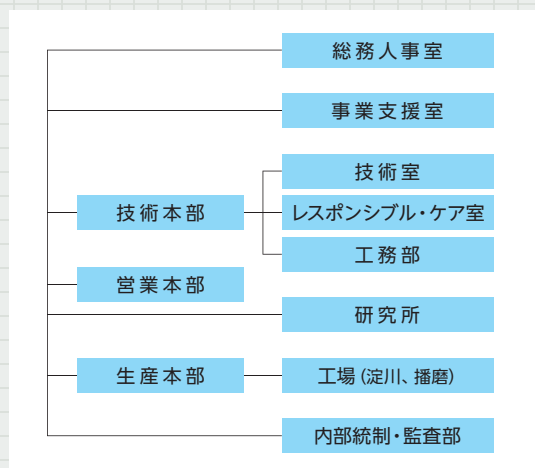
会社概要 2020年9月30日現在

社名	田岡化学工業株式会社
本社所在地	〒532-0033 大阪市淀川区新高3丁目9番14号 (ピカソ三国ビル7階)
設立	1934年10月
資本金	15億72百万円
事業部門	精密化学品部門、機能材部門、機能樹脂部門、化成品部門
売上高	256億71百万円 (2020年3月期)
従業員数	412名 (連結) (2020年3月末)
事業所 (営業)	東京支店
工場	淀川工場、播磨工場 (播磨地区・愛媛地区)
関係会社	国内 株式会社田岡化学分析センター 田岡淀川ジェネラルサービス株式会社 田岡播磨ジェネラルサービス株式会社 海外 タオカ ケミカル インド プライベート リミテッド タオカ ケミカル シンガポール プライベート リミテッド



本社

組織概要



特集 気候変動に対する 当社の取り組み

田岡化学は、化学技術を基盤として時代が求める新たな価値を創造し、最適を追求した化学製品を社会に供給することで、快適で豊かな暮らしの実現と社会の持続的な発展に貢献します。



SBTに対する取り組み (温室効果ガスの削減)

2030年に2017年度GHGガス（温室効果ガス）排出量の15%削減を目標としてチャレンジします。この目標は、従来の取り組みの延長線上では達成は困難であり、新たな取り組みが必要です。そこでSBT推進委員会を新設し全部門が一丸となって取り組みを進めます。

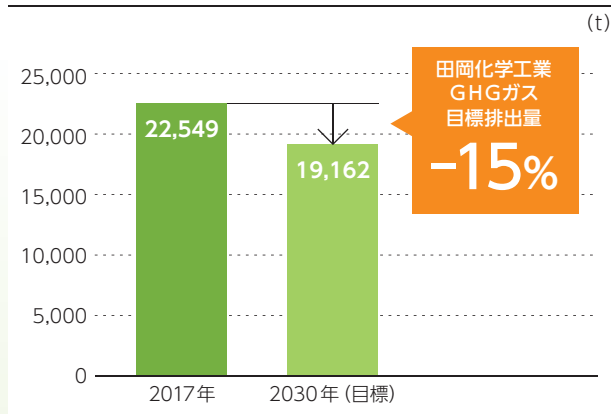
SBT (Science Based Targets) とは、産業革命前からの地球の平均気温上昇を2℃未満にするという2015年に採択された「パリ協定」の「2℃目標」を実現するために、企業が気候科学に基づき設定した高水準な温室効果ガスの排出削減目標のことです。

SBT推進委員会新設

2019年、2030年の目標設定および目標遂行のため、新たに技術担当役員を長として委員会を発足させました。

従来から省エネ部会を設置し、LEDの導入やエネルギー効率のよい機器の更新を進めてまいりました。このような省エネの取り組みに加え、新たに研究所、技術室および事業支援室のメンバーを加え、エネルギー効率の改善に向けたプロセス設計、設備設計および技術導入について検討し、推進できる体制を整えました。

GHGガス排出量



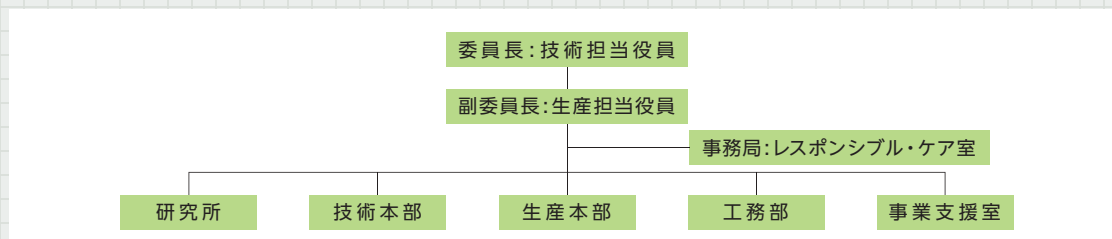
⇒ 役員メッセージ

技術担当役員
日置 毅

SBTは、社会課題への対応に向けたイノベーションを伴うハードルの高い達成水準ではありますが、皆でその趣旨を共有し目標達成に向けて、真剣に検討することにより、これまでに無い革新的な取り組みができるものと考えています。



SBT推進体制



1 本社部門の移転



新たな拠点へ、本社機能を展開。

2020年9月23日より、本社部門を以下のとおり移転いたしました。

これを機に、社員一同気持ちを新たに、より一層社業に専心する所存でございますので、今後とも引き続きお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

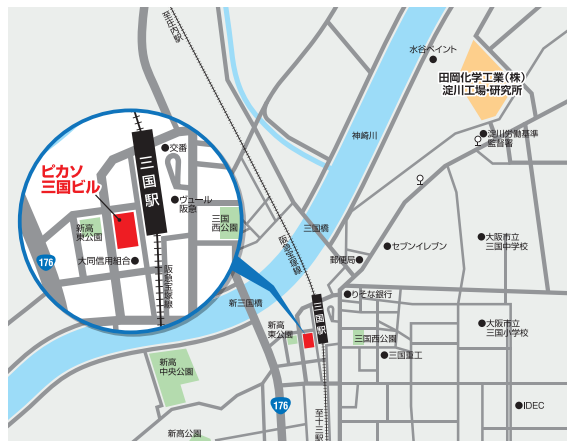
なお、従来、本社部門が所在していた、淀川工場内の事務棟は研究開発機能の強化を目的とした改装を行い、主に研究部門、製造部門の業務に活用する予定にしております。



本社・営業本部：

〒532-0033
大阪市淀川区
新高3丁目9番14号
(ピカソ三国ビル7階)

本社従業員数 56名
(2020年9月30日時点)



2 防災への取り組み

淀川工場外壁を安全フェンスに。

2018年、大阪北部地震により、小学校の老朽化したブロック塀が倒壊し、その下敷きになった尊い命が奪われました。

弊社淀川工場でも以前は北側の歩道沿いにブロック塀を設置しておりましたが、この事件を契機として、歩道を利用される地域住民の皆様の防災上の観点から、軽量かつ強固な安全フェンスへの切り替えに着手し、2020年8月に210メートルにわたる更新作業が完了いたしました。



更新前



更新後

3 IR活動状況

ステークホルダーへの積極的な情報発信。



取材対応（機関投資家・アナリスト向け）

2018年度：55回、2019年度：110回、
2020年度（4～12月）：119回

投資家・アナリスト訪問

2018年度：7回、2019年度：59回、
2020年度（4～12月）：11回

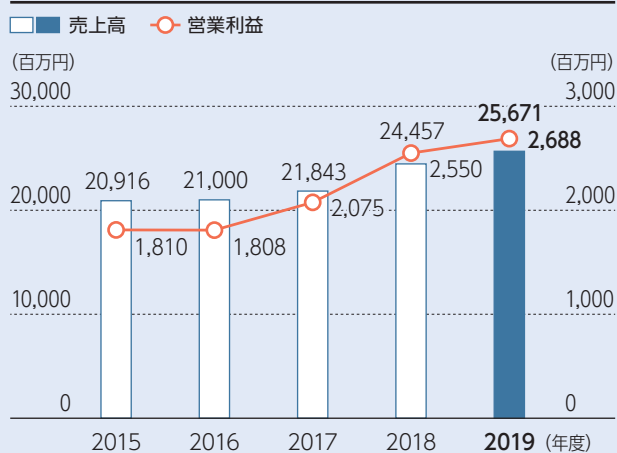
当社は株主・投資家への説明責任を果たすため、当社ウェブサイトによる情報開示の実施等により、当社への正しい理解を得るとともに適正な株価形成と企業価値向上につなげるため、株主・投資家との間で適時・適切なコミュニケーションを行っています。

機関投資家・アナリストとの対話は事業支援室担当役員が統括し、事業支援室が主管部署として関連部署と連携して適切な情報収集に努めるとともに、機関投資家・アナリストとの対話の機会を設けるべく努めてまいります。

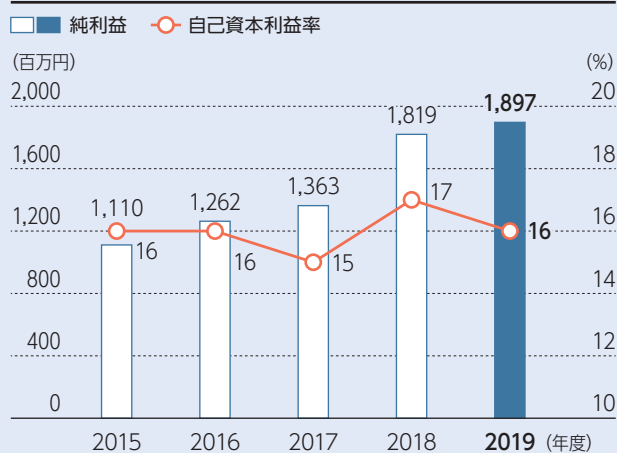
田岡化学では2019年3月期決算から社長による決算説明会を開始し、2020年3月期第2四半期決算説明会および2020年3月期決算説明会を実施しております。

財務ハイライト

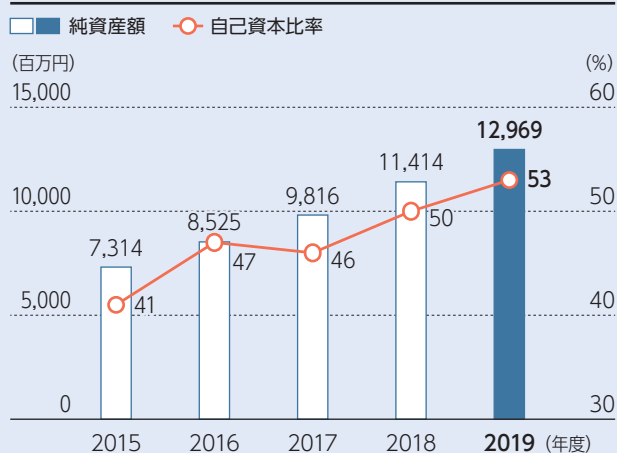
売上高／営業利益



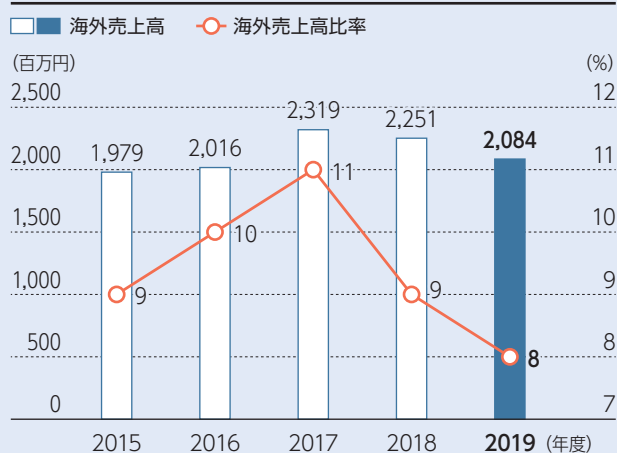
純利益／自己資本利益率



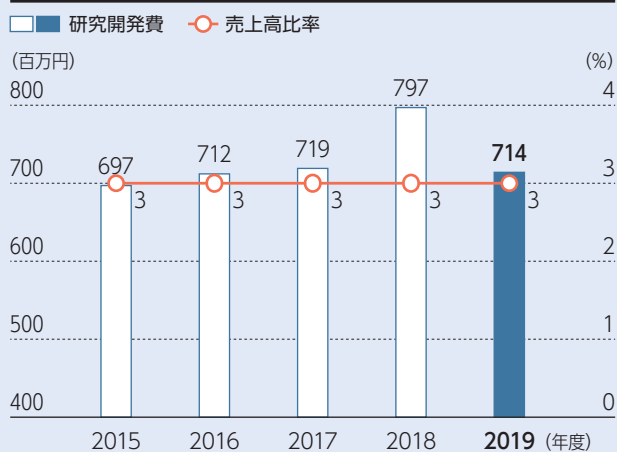
純資産額／自己資本比率



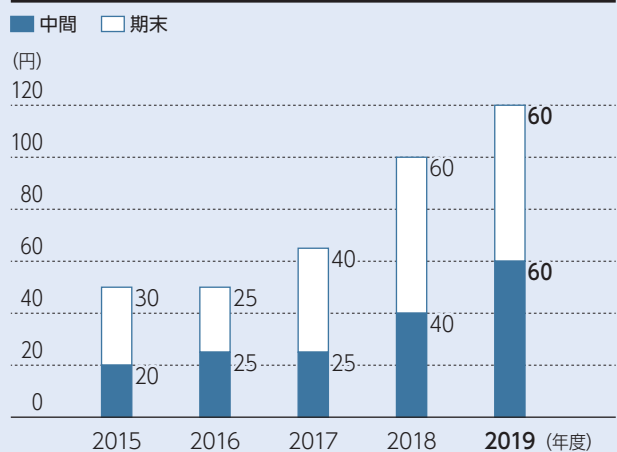
海外売上高／海外売上高比率



研究開発費／売上高比率



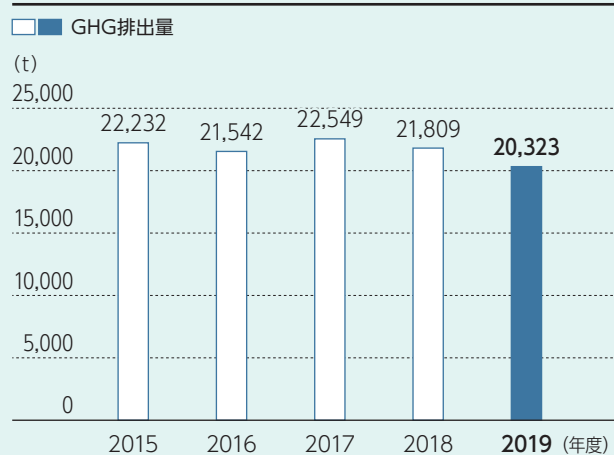
1株当たり年間配当金



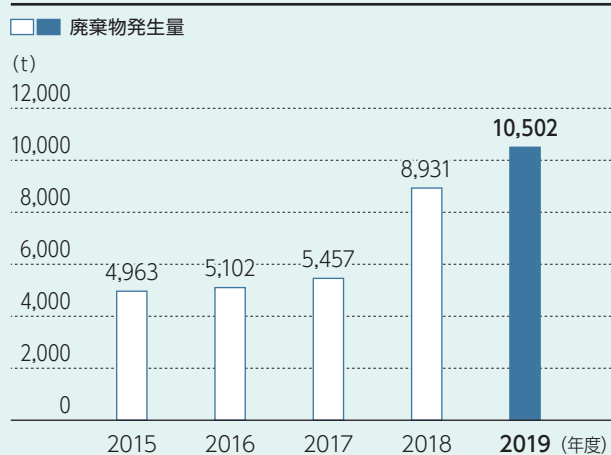
※2017年10月1日に5株につき、1株の株式併合を実施。このため、これ以前の1株当たりの配当金は当該株式併合に換算した数値を記入。

非財務ハイライト

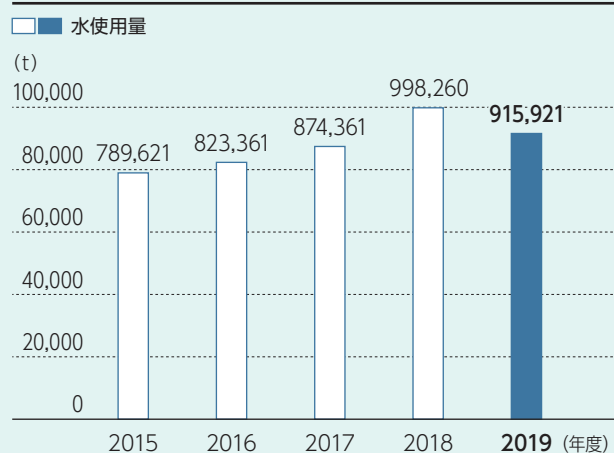
GHG排出量



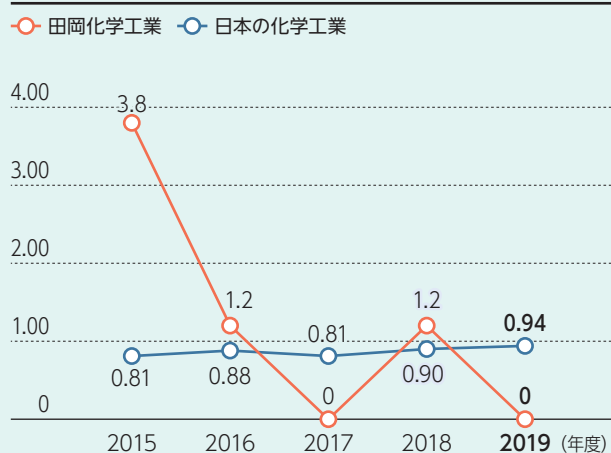
廃棄物発生量



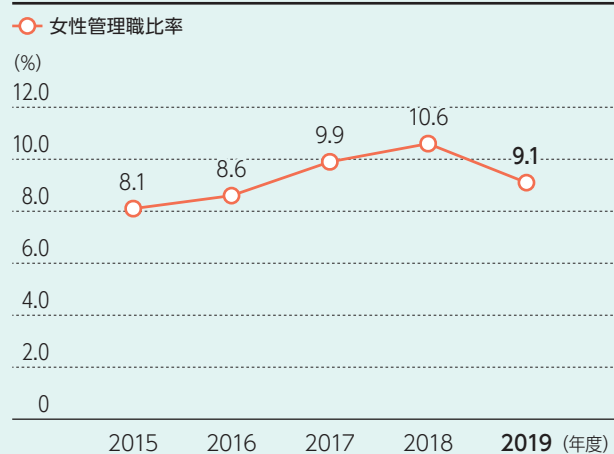
水使用量



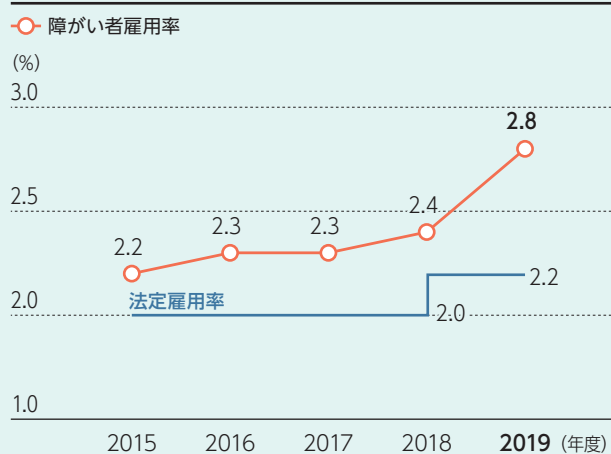
休業災害度数率



女性管理職比率



障がい者雇用率



レスポンシブル・ケア (RC) 活動



レスポンシブル・ケア®

レスポンシブル・ケアとは、化学物質を製造し、または取り扱う事業者が、化学物質の開発から製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ライフサイクルに

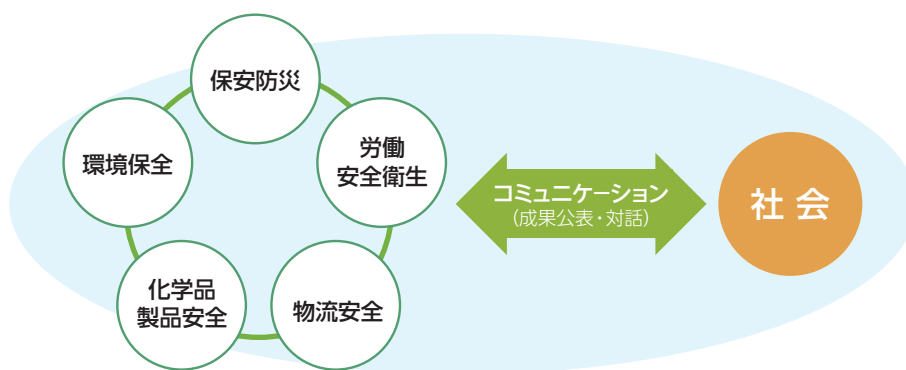
わたって環境・安全面の対策を実行し、改善を図っていく自主管理活動です。

レスポンシブル・ケアは1985年カナダで誕生しました。1989年国際化学工業協会協議会が設立され、この活動は、世界60ヶ国を超える諸国で展開されています。

レスポンシブル・ケア活動の基本

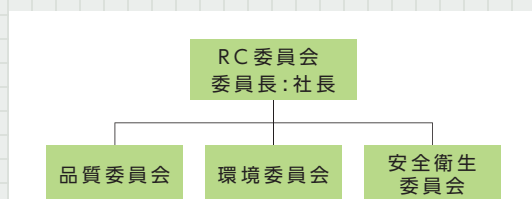
レスポンシブル・ケアの実施項目は次の5項目を中心に活動を行います。

また、その成果を公表して社会とのコミュニケーションを進めます。



RC世界憲章

田岡化学のレスポンシブル・ケア活動体制



Voice



播磨工場
副工場長
レスポンシブル・ケア室 (環境保安)
林 浩二

当社は「安全をすべてに優先させる」ということを基本に、品質・安全・環境の確保に努めています。また、気候変動問題にも、住友化学グループの一員として、取り組んでいます。

用語解説

ライフ・サイクル・アセスメント

その製品に関する資源の採取から製造、使用、廃棄、輸送などすべての段階を通して環境影響を定量的、客観的に評価する手法である。LCAと略称される。これまでの環境負荷評価は、製品の使用や廃棄に伴う有害物質の排出の有無、処理の容易性等一定のプロセスだけを評価範囲としたものが多かったが、これだと全体としては環境への負荷の低減には寄与

しない製品が生産されてしまう可能性がある。そこで製品の原料採取、製造、流通の段階も含めて環境への負荷を評価することにより、経済社会活動そのものを環境への負荷の少ないものに変革しようとする手法が考えられた。平成5年に制定された環境基本法においても「環境への負荷の低減に資する製品等の利用の促進」が規定されている。



環境保全

関連するSDGs



環境マネジメントシステム (ISO14001)

田岡化学は環境マネジメントシステムの国際規格である、ISO14001の認証を取得し、運営しています。

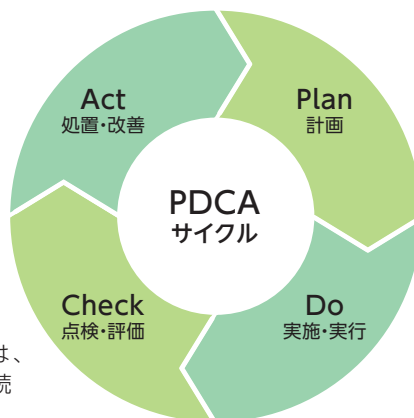
これまでは淀川工場、播磨工場個別での認証取得でしたが、2018年3月に淀川工場、播磨工場を統合した認証を取得しました。

またこの統合に向けて、活動内容についても新規格 (ISO14001:2015) での運用に移行しました。そのため新規格に基づいて、変化する環境やニーズに確実な対応を行い、事業活動全般に関して環境への影響を評価し、更なる環境負荷低減、継続的改善に取り組んでいます。



ISO14001自覚教育 (DVD視聴)

環境マネジメントシステムとは、右図のPDCAサイクルによる継続的改善を推進するものです。

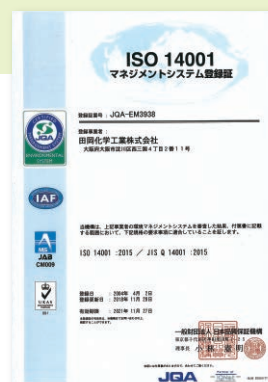


田岡化学工業株式会社

■ 2004年4月 ISO14001 認証登録
[審査機関] JQA (財日本品質保証機構)

■ 2018年11月 ISO14001 定期審査完了
[審査機関] JQA

対象範囲はJQA(財)のホームページをご参照ください。

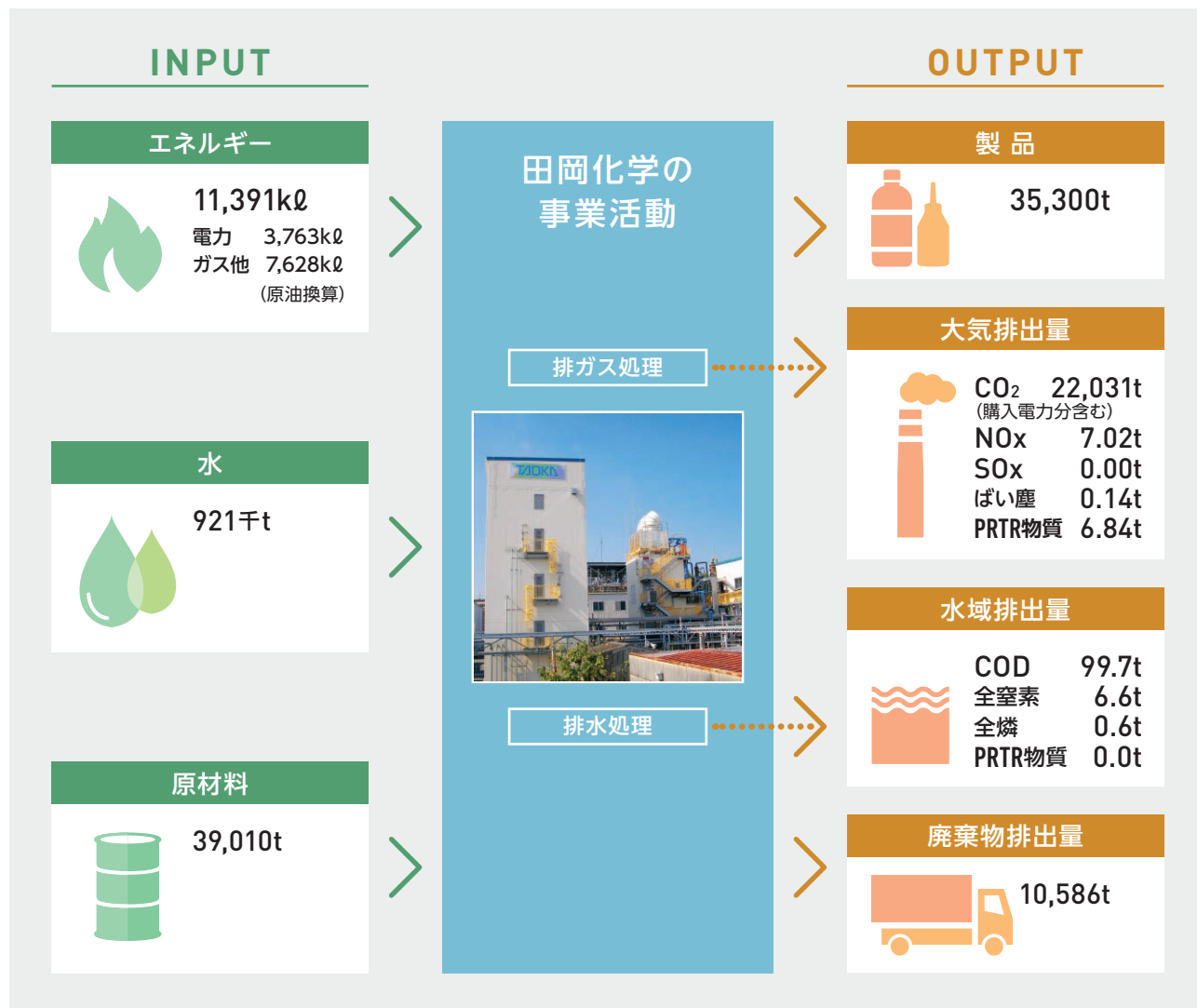


ISO14001 認証登録証



環境負荷の全体像 2019年度

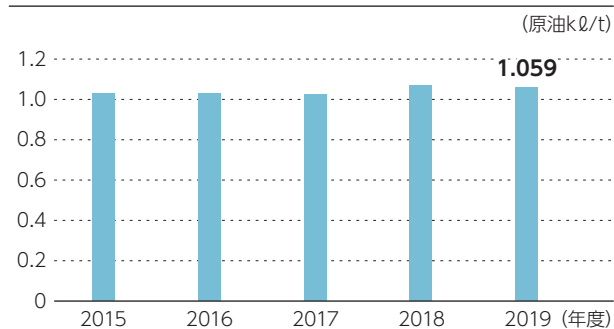
田岡化学の環境保全活動は、まず環境負荷の全体像を把握することから始まります。



エネルギー消費量の削減

田岡化学は、省エネルギーと温室効果ガスの排出抑制の観点から、エネルギー消費量削減を計画・実施しています。即ち省エネ法に基づき、エチレン換算生産量基準の原油換算エネルギー原単位を毎年1%削減することを目標としてエネルギー消費量削減に努めています。2019年度は昨年度より約1%削減しております。

エネルギー原単位の推移





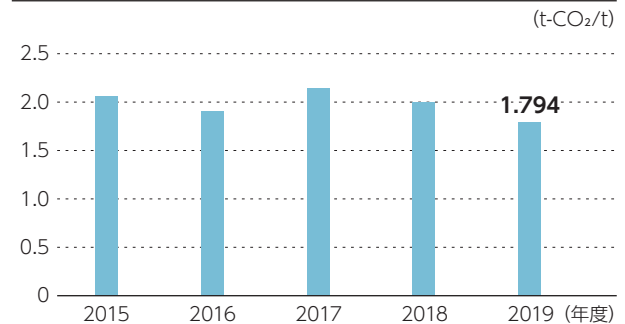
CO₂排出量の削減

エネルギー消費量と同様、CO₂排出量原単位を毎年1%削減することを目標としています。買電使用によるCO₂排出量は、毎年公表される電気事業者別の排出係数で算出します。合理化や省エネ設備の導入も行いましたが関西電力の排出係数が大幅に下がったため、CO₂排出量原単位が18%減少しました。

省エネルギーの取り組み

田岡化学では2019年度から2021年度までの3年間の省エネルギーに関する中期計画を策定しています。その内容は、前記のようにエチレン換算生産量当たりの原油換算エネルギー原単位、CO₂排出量原単位を年1%の割合で削減するもので、各工場毎に目標値を設定しています。(2016~2018年度の平均実績値の通算3%削減を目標としています。)目標値に対して、2019年度の実績値を表に示します。全社のエネルギー原単位は、中期目標に対して1.01と目標未達成でしたが、初年度としては順調に推移しています。CO₂排出量原単位は排出係数の大幅な減少等もあり、中期目標に対して0.89と目標を大幅に達成しました。CGSについては買電・都市ガス費用およびメンテナンスコストを考慮したベストミックスの検討を実施して、淀川工場は年間運転時間を5,000時間、播磨工場は年間連続運転としました。また、省エネ法定期報告の数値をもとに、2015年度実績値から評価が開始された省エネ法事業者クラス分け制度において、2019年度実績値は3年連続

CO₂排出量原単位の推移



最上位のSクラスと評価されました。今後も継続的にエネルギー原単位の削減を図り、目標達成とともにSクラス評価となるように省エネルギーの取り組みを行ってまいります。

2019年度の主な取り組み

2019年度も引き続き、製造部門の合理化(用役原単位改善)、間接部門の日常的な無駄なエネルギー使用の削減、全従業員への省エネルギーに関する広報活動・動機付けのために、夏季・冬季の節電取り組み(省エネ専門部会員によるパトロール、エネルギー管理統括者(日置専務)によるパトロール)、省エネアイデアコンテスト、省エネニュースの発行を継続して実施しました。トピックスとして、播磨工場では蒸気ボイラーを高効率設備に老朽更新しました。淀川工場では事務棟変電設備更新工事において、省エネ公的補助金を活用しました。国庫補助金を財源とする省エネ補助金には各種ありますが、設備単位を対象とするもので、設備購入費の1/3が補助されます。今回は1,119千円の補助金を得ることができました。



播磨工場蒸気ボイラーを高効率設備に更新

各サイトの省エネルギーの取り組み

工場		2019年度実績	中期目標値	対目標比
淀川工場	エネルギー原単位 (KL/T)	1.138	1.070	1.06
	CO ₂ 排出量 (原単位 CO ₂ -T/T)	1.688	1.937	0.87
播磨工場	エネルギー原単位 (KL/T)	1.083	1.168	0.93
	CO ₂ 排出量 (原単位 CO ₂ -T/T)	1.681	1.977	0.85
大江	エネルギー原単位 (KL/T)	0.808	0.791	1.02
	CO ₂ 排出量 (原単位 CO ₂ -T/T)	2.458	2.436	1.01
東京支店	エネルギー原単位 (KL/T)	0.003	0.003	1.19
	CO ₂ 排出量 (原単位 CO ₂ -T/T)	0.006	0.005	1.20
全社	エネルギー原単位 (KL/T)	1.068	1.063	1.01
	CO ₂ 排出量 (原単位 CO ₂ -T/T)	1.794	2.022	0.89

Voice



淀川工場
工務部長
西本 太一

これまでの取り組みにより省エネ率は過去3年間最高ランクの評価を獲得しました。これからはより厳しい状況になりますので、設備の老朽更新時には省エネ設備を積極的に採用するとともに、各部署においても積極的な省エネ取り組みを推進してまいります。



水質汚濁物質排出量

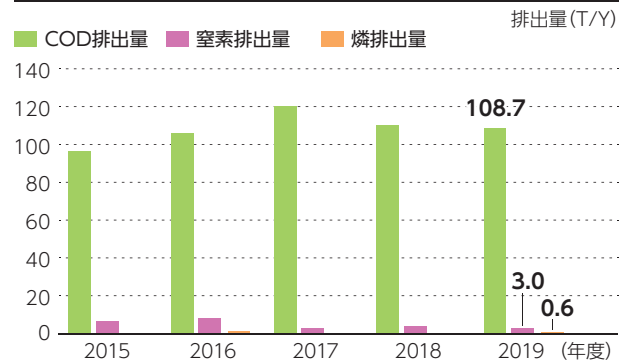
水質汚濁の原因となる排水中のCOD（化学的酸素要求量）、窒素および磷の排出濃度は、各工場とも規制値を充分下回っております。今後とも、節水による排水量の削減と排水処理技術の向上によって、排出負荷削減に努めます。

用語解説

COD

水中の有機物を酸化剤で分解する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、海水や湖沼水質の有機物による汚濁状態を測る代表的指標。単位はmg/ℓまたはppm。

COD、窒素、磷の排出量の推移



Voice



播磨工場
製造部 課長
江川 孝満

環境設備運転責任者の江川です。環境運転業務にあたり、多方面から情報を収集し、安全・安定運転に取り組んでいます。



播磨工場
製造部 課長代理
藤原 祥仁

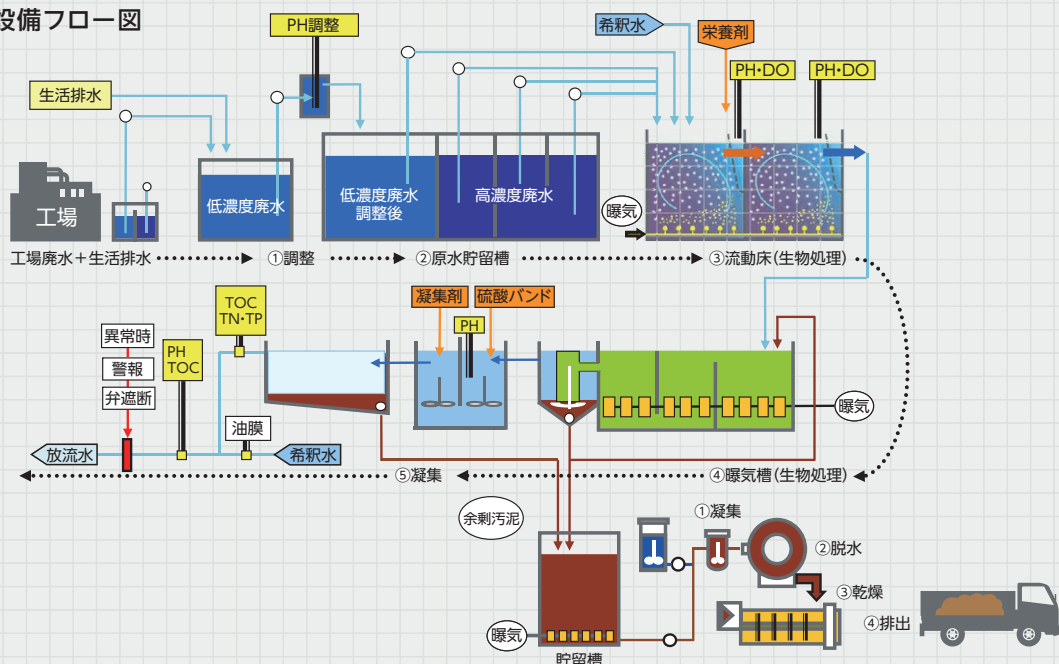
環境設備運転担当の藤原です。少量多品種の生産のため、様々な排水が送られてきます。それらを円滑に処理するために、日々、排水の状態・汚泥の状態・生物相の状態を観察しながら運転をしています。今後も円滑な排水処理業務に努めます。



播磨工場
製造部
村上 太輔

4月より環境設備の運転に従事している村上です。排水処理は、環境面での水質保全や工場の製品生産に影響する重要な業務だと思います。排水処理設備が安定的に運転できるように自分ができることから改善業務に取り組んでいます。

排水処理設備フロー図





大気汚染物質排出量

大気汚染物質は法令に基づく排出濃度規制値を充分下回っております。今後も良質燃料の効率的な使用と適切な設備管理により、排出量削減に努めます。

用語解説

SOx、NOx

SOxは硫黄を含んだ燃料の燃焼によって生成する硫酸化物のうち、SO₂、SO₃、硫酸ミストの総称。NOxは燃料の燃焼により生成した窒素化合物のうち、NOおよびNO₂を指す。

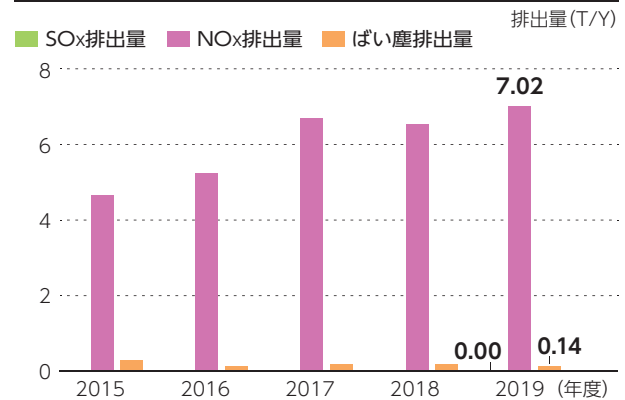
ばい塵

ばい煙の一つで、すすや燃えかすの固体粒子状物質のこと。大気汚染防止法では「燃料その他の物の燃焼、または熱源としての電気の使用に伴い発生するもの」と定義している。

VOC (Volatile Organic Compounds)

揮発性有機化合物の総称。有機溶剤が主なもので、環境に対しては光化学オキシダントや浮遊粒子状物質等の大気汚染の原因物質といわれている。

SOx、NOx、ばい塵の排出量の推移



化学物質排出量

PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) は、環境に有害な恐れのある化学物質の大気や水質、土壌などの環境への排出量と、廃棄物等として事業所の外へ移動する量を行政に届出を行い、公表していく制度です。

1999年にPRTR法「特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律」が制定されました。

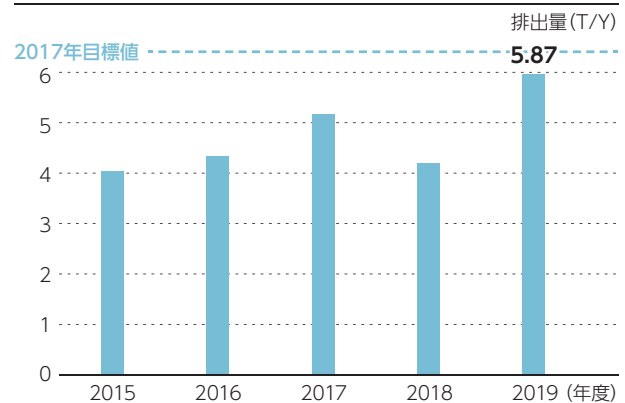
田岡化学では、対象物質の年間使用量・排出量等を調査し、行政および（一社）日本化学工業協会へ報告しています。

用語解説

PRTR (Pollutant Release and Transfer Register)

環境汚染物質排出・移動登録の略。企業が排出または移動する有害な化学物質・環境汚染物質を行政に報告させ、公表することによって、環境リスクの把握や軽減を図っていくとする制度。

化学物質の排出量の推移



主なPRTR法指定化学物質の状況 (上位10物質)

					kg/Y (2019年度)						
物質名	排出量	大 気	水 域	土 壌	排出量 合計	物質名	排出量	大 気	水 域	土 壌	排出量 合計
n-ヘキサン	3,244	0	0	0	3,244	デシラルコール	154	154	0	0	154
トルエン	1,233	0	0	0	1,233	n-オクタノール	97	97	0	0	97
2-エトキシエタノール (エチセロ)	567	0	0	0	567	臭素	54	54	0	0	54
キシレン	282	0	0	0	282	クロロベンゼン	33	33	0	0	33
イソデカノール	177	0	0	0	177	エピクロロヒドリン	31	31	0	0	31
						合 計	5,871	5,871	0	0	5,871

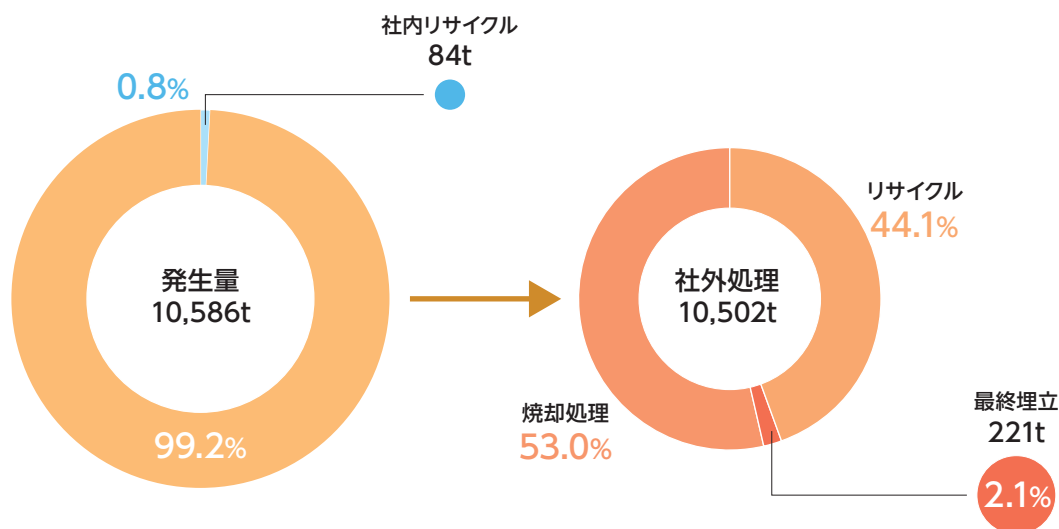
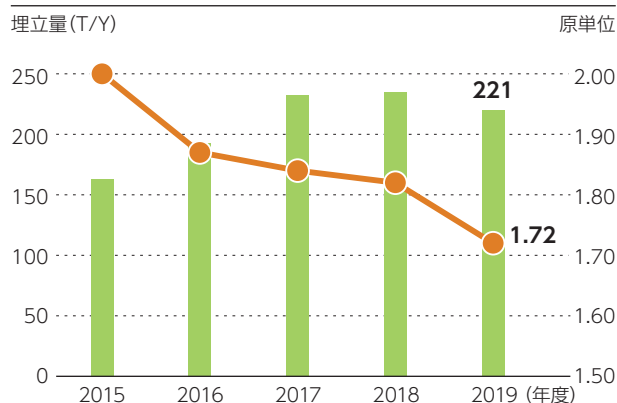


廃棄物の削減

田岡化学は、プロセスの設計段階から実生産に至るまで、常に廃棄物の最少化をテーマに置いており、その基本としているのは3R (Reduce:廃棄物の発生抑制、Reuse:再使用、Recycle:再生利用) です。リサイクル業者、優良産廃処理業者と連携して、最終埋立量の削減に取り組んでまいりました。

2019年度は、全廃棄物発生量の44.1% (2018年度は44.8%) を外部リサイクル、0.8% (2018年度は5.3%) を内部リサイクルとし、焼却処理に53.0% (2018年度は47.5%)、残り2.1% (2018年度は2.5%) を最終埋立としました。埋立量全体は増加傾向にありましたが廃棄物の処理方法等を見直し、エチレン換算生産量に対する廃棄物原単位は年々減少し、2018年よりも減少となりました。今後も継続して廃棄物の削減、廃棄物最終埋立量削減に努めてまいります。

廃棄物最終埋立量・原単位の推移



Voice



田岡淀川ジェネラルサービス
北島 弘治

田岡淀川ジェネラルサービスでは淀川工場の産業廃棄物および有価物のドラムおよびコンテナを外部業者に依頼し、構内の搬出および積み込み作業を確実に実施しています。



田岡播磨ジェネラルサービス
課長代理
酒井 謙太郎



吉野 祥代

各プラントより分別表示された廃棄物は、廃棄物排出事業者の責任のもと、構内保管場所管理を含めた処理 (排出) 業務を担う中、適切かつ迅速な廃棄物処理を継続しています。



環境規制値の監視・遵守状況

環境に関する法令等規制は下記のとおりです。すべての測定結果で法規制値以下でした。

分類	法令	工場	測定項目	測定頻度	対象施設等
大気	大気汚染防止法・環境保全協定	淀川	SOx、NOx、ばい塵	1回/6ヶ月	ボイラー等 11基
		播磨	SOx、NOx、ばい塵	3回/年	ボイラー等 10基
水質	下水道法	淀川	COD、BOD、ヨウ素消費量、着色度 フェノール類、排水量	1回/日	工場排水
			鉄、ジクロロメタン、ジクロロエタン、銅、全クロム、 トリクロロエタン、四塩化炭素、鉛、浮遊物質量、pH等	1回/週	
			トルエン、キシレン、1,4-ジオキサン	1回/月	
	水質汚濁防止法	播磨	COD、BOD、浮遊物質量、燐、窒素 n-ヘキサン抽出物質、pH、排水量	1回/日～1回/週	
	瀬戸内海環境保全 特別措置法	播磨	COD、BOD、浮遊物質量、 n-ヘキサン抽出物質、排水量	1回/週	
	兵庫県条例	播磨	COD、BOD、浮遊物質量、燐、窒素 n-ヘキサン抽出物質	1回/週	
	環境保全協定	播磨	COD、BOD、浮遊物質量、 n-ヘキサン抽出物質、pH、排水量	1回/週	
		播磨	鉄、ベンゼン、ジクロロメタン等	1回/年	
その他	騒音規制法	淀川	騒音	1回/年(自主)	敷地境界
	騒音規制法、 環境保全協定	播磨		1回/3ヶ月	
	振動規制法	淀川 播磨	振動	随時(自主)	
	悪臭防止法	淀川	臭気	1回/年(自主)	
	悪臭防止法 環境保全協定	播磨		1回/3ヶ月	

用語解説

大気汚染防止法

国民の健康を保護するとともに生活環境を保全することを目的として、ばい煙、粉塵、有害大気汚染物質、自動車排出ガスの規制および事業者の損害賠償責任について定められている。

下水道法

都市の健全な発達および公衆衛生の向上、公共水域の水質保全を図るため、下水道の管理の基準が定められている。

悪臭防止法

悪臭の原因となる典型的な化学物質を「特定悪臭物質」として定めて規制する方法、および、種々の悪臭物質の複合状態が想定されることから、物質を特定しないで「臭気指数」を規制する方法の2通りの方法で悪臭を防止するための法律。

水質汚濁防止法

水質汚濁防止を図るため、工場および事業場等からの公共用水域への有害な水質汚濁物質の排出、および地下水への浸透を規制。更には生活排水対策の実施を推進し、国民の健康を保護し、生活環境を保全するための法律。

騒音規制法

工場および事業場における事業活動ならびに建設工事に伴って発生する騒音について必要な規制を行うとともに、自動車騒音に係る許容限度を定めること等により、生活環境を保全し国民の健康の保護に資するための法律。

環境保全協定

地方公共団体と企業の間で交わした公害防止に関する約束。住民団体が関与するものもある。



環境会計

環境保全に関わるコスト等を定量的に把握して、環境保全活動を効率的に進めています。集計方法は、環境省の「環境会計ガイドライン・2005年版」を参考に、当社の集計基準に基づき集計しました。

環境会計の内容

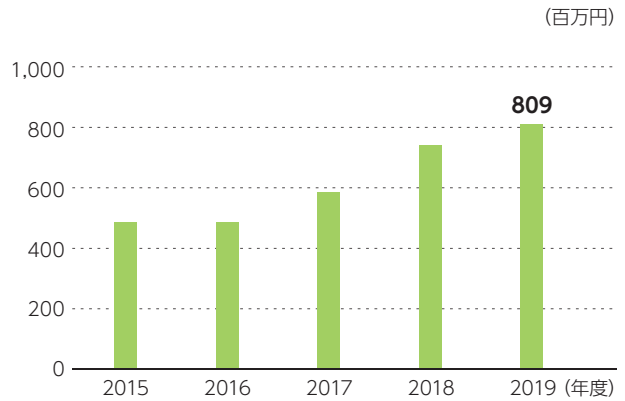
事業エリア内	● 環境対策コスト ● 地球環境保全コスト ● 公害防止（大気汚染、水質汚濁防止等） ● 温暖化防止（CO₂、オゾン層破壊削減対策）
管理活動	● 一般環境管理費用 ● 環境マネジメントシステム取得、維持費用 ● 社員への環境教育コスト
研究開発	● 公害防止、省エネ、省資源対策関連の研究開発
社会活動	● 地域住民、関連団体等の支援・協力に関する費用
環境損傷	● 環境破壊修復に要するコスト

用語解説

環境会計

企業等が持続可能な発展を目指して、社会との良好な関係を保ちつつ、環境保全への取り組みを効率的かつ効果的に推進していくことを目的として、事業活動における環境活動のためのコストとその活動により得られた効果を確認し、可能な限り定量的（貨幣単位または物量単位）に測定し伝達する仕組み。

環境保全コスト



Voice



研究所 所長
藤井 克宏

研究所は環境と調和したモノづくりを目指し、化学物質の適正な管理と、環境負荷低減につながる製品・プロセス開発に取り組んでいます。

研究開発トピックス

環境にやさしい 製造プロセスの開発

当社では多様なファインケミカル製品を製造・販売していますが、これらの製造プロセスの最適化・合理化を進め、収率改善や溶剤リサイクル・触媒リユース等により、環境負荷低減の取り組みを継続しています。また新製品のプロセス開発にあたっては、初めから環境対策を考慮した設計とすることを基本としています。



環境にやさしい ゴム用添加剤の開発

当社ではゴムとスチールコードの接着剤や樹脂加硫剤などのゴム用添加剤を製造・販売していますが、タイヤメーカー等での使用時に蒸散し環境を悪化させるような溶剤やモノマーの残存を極力削減した製品を開発しています。またタイヤの省燃費化に役立つ添加剤の開発にも取り組んでいます。



環境にやさしい 接着剤の開発

当社は溶剤を使用しない環境にやさしい反応型の瞬間接着剤、1液エポキシ接着剤の製造・販売をしています。新製品開発にあたっては、機能を向上させるための種々添加剤についてもより環境負荷の少ない物質への切替えに取り組んでいます。



環境にやさしい 製紙用薬剤の開発

紙は我々の日常生活の中で、情報伝達媒体や、ダンボール箱などの包装材料として、また、ティッシュペーパーなど生活用品としてたくさん使用されています。当社製紙用薬剤は、これらの紙を製造する時に、高度な機能を付与するために添加する薬剤です。当社では森林保護に役立つ紙のリサイクルに対応した製品や処方を開発するとともにPRTR法で指定されたホルムアルデヒド等の化学物質を使用しない製品への転換や、排水への負荷が小さい製品の開発などに取り組んでいます。





化学品の安全

田岡化学は、「品質、安全、環境に関する経営基本方針」のもと、当社製品に関わるすべての方々を対象として、安全確保と健康障害を未然に防止する活動に取り組んでおります。また、住友化学グループ会社と連携し、最新の情報を共有することにより、適切な活動を展開しております。

国内化学品規制に対する取り組み

2018年（平成30年）6月13日に公布された食品衛生法等の一部を改正する法律により、食品用器具・容器包装にポジティブリスト制度が導入され、2020年（令和2年）6月1日に施行されました。

今回の改正にあたっては、業界団体を通じて最新情報を共有するとともに、意見を提出するなど、活動を進めてまいりました。今後、田岡化学は原材料製造事業者として、お客様に対して、材料や製品に使用されている当社品がポジティブリストに適合していることを確認し、お客様に適正な情報を伝達する等、取り組みを進めてまいります。

また、「化審法」、「安衛法」、および「麻薬及び向精神薬取締法」等の化学品管理に関する法律に対しては、最新の規制動向を把握し、適切な対応を継続してまいります。特に、頻繁に更新される麻薬および向精神薬取締法に関しては、指定物質等、対象物質が公表された場合、社内イントラネットにて情報共有するなど、迅速な対応を実施しております。

海外化学品管理規制に対する取り組み (トルコREACH (KKDIK))

海外各国における化学品管理規制に対しては、日々変化しておりますが、最新情報の把握に努め、社内外の関係部門への情報発信および行政当局への適切な届出業務を実施しております。

欧州のEU REACHの化学品規制については、お客様のご要望も踏まえながら、継続して対応しております。また、2017年6月23日、トルコ環境都市計画省より、EU REACHに相当するKKDIK（化学物質の登録および評価、認可、制限に関する規則）が公布されました。同規則はEU REACHに準じられて作成され、トルコ語で「Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals」の最初の文字を取り、「KKDIK」と命名され、2017年12月23日に施行されました。田岡化学では、トルコ向けの輸出も活発に行っており、予備登録への対応として、輸出実績情報を調査するとともに、当社製品の流通に支障が生じないように、唯一代理人の協力も得ながら、適切な登録を進めております。

その他の国や地域

アジア各国については、特に中国、韓国、台湾およびベトナム等、化学品管理法規制の改正が進んでいる国に対し、当社製品の輸出ニーズを把握し、輸出業者や外部セミナーを通じて得られた最新情報をもとに、社内関係部署に対して情報展開し、必要な管理と対応を行っています。また、各部署には、化学品管理に係わる教育を行い、人材育成に努めております。

製品安全の取り組み

製品を安全に取り扱っていただくため、国内すべての製品について、JISに準拠したラベル・SDSを作成し、お客様に危険・有害性情報を提供しております。また、製品輸送時の安全を確保するため、取り扱い上注意が必要な製品につきましては、輸送時に携帯するイエローカードを輸送者に提供しています。海外向け製品についても、各国規制に準拠したラベル・SDSのGHS対応を推進しています。

用語解説

SDS (Safety Data Sheet)

安全データシートの略。化学品に関わる事故を未然に防止することを目的に、環境に対する影響や安全性、取り扱い方法を記載したもので、化学品供給者から使用者、取り扱い事業者に配布される。



GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals)

世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステムのことで、



イエローカード

化学物質等の物流過程における安全性確保と事故時の適切な対応を目的として、化学物質のメーカー等が輸送業者に連絡先や応急措置について簡潔にまとめたイエローカードを配布する。(※日本化学工業協会が作成様式を定めている。主な記載事項: 物質の品名、国連番号 (任意記載)、該当法規、危険有害性、事故発生時の応急処置、緊急連絡先、災害拡大防止措置の方法等。





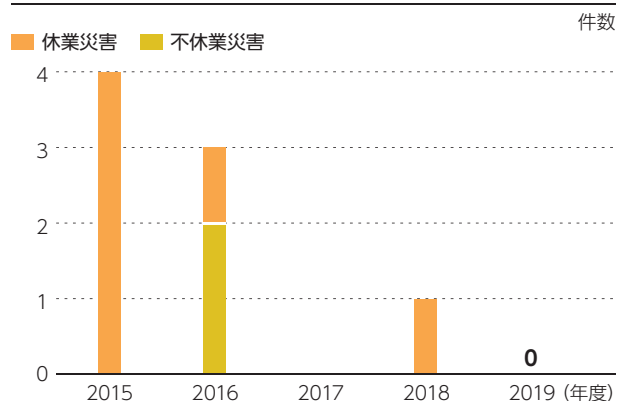
安全活動

田岡化学では、安全は企業活動の根幹をなすものと考えており、「安全を全てに優先させる」経営方針のもとに関係会社も含めてグループ全体で災害の撲滅に努力しております。2019年度は完全無災害を達成いたしました。

2020年度 安全衛生スローガン

作業前に一呼吸 点検・確認・指差呼称
基本を守って安全作業
みんなで築こうゼロ災職場

労働災害件数の推移



産業医講演会 (淀川工場)



働きざかりヘルスアップ研修会 (播磨工場)



安全祈願祭 (淀川工場)



スローガンポスター



安全週間ポスター (最優秀作品)



安全週間ぬり絵 (最優秀作品)

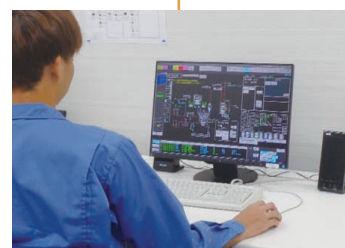
保安防災

関連するSDGs



安全性評価ステップ

田岡化学は、化学プラントの事故や災害を未然に防止するため、プロセスおよびプラントの危険性評価や、より安全な設備構築のため、研究から製造に至る主要ステップでその安全性に関する検討会を実施し、必要な対策を講じています。



[淀川工場]



安全帯特別教育



防災訓練

[播磨工場]



普通救命救急講演会



防災訓練

人事制度

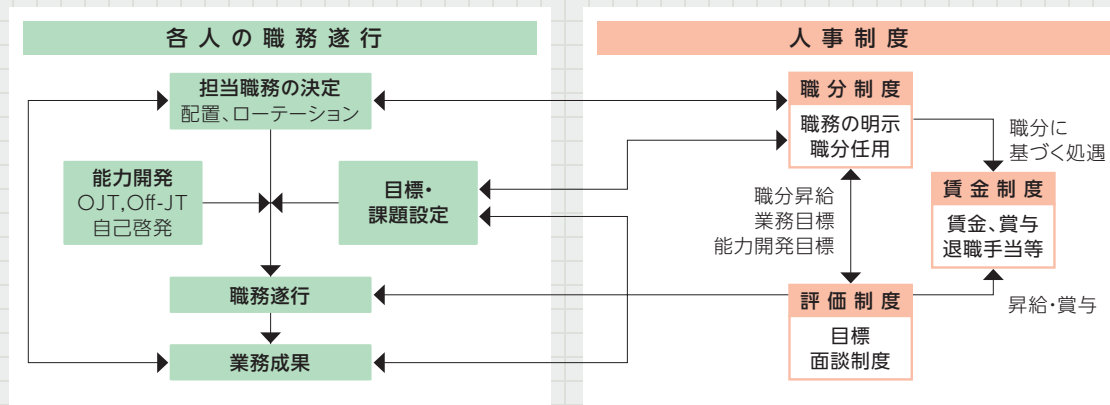
人事制度のポイント

- 1 従業員一人ひとりの業績成果や能力をより適正に反映させること。
- 2 部門目標の確実な展開を図るため、目標管理制度の一層充実を図ること。
- 3 より公平性、納得性のあるものであること。

当社は、『働きやすく、活力のある会社』の実現および『従業員一人ひとりの育成・成長を通じて当社グループの持続的成長を果たす』ことを目指し、左記の考え方をベースとした人事制度を導入しています。

こうした人事制度のもと、自らの役割を認識する中で、個々人が成果を上げていくことによって、部門の目標の達成や会社業績の向上につなげていくことはもちろん、自分自身の成長と働き甲斐・やりがいの実現につなげていきます。

人事制度の体系図



人材育成

当社では、OJT (On the Job Training) と自己啓発を基本とし、それを補完するものとして、以下の人材育成プログラムを用意しています。

1. 階層別教育

部長研修、課長層のマネジメント研修、新任管理職研修、中堅社員研修、操業監督者のトレーナー研修、中核製造オペレーター研修、新入社員研修 等

2. テーマ別研修

- 1 専門知識・スキル研修
- 2 技術・技能伝承研修
- 3 コンプライアンス・内部統制研修
- 4 安全衛生・保安防災・環境保全研修
- 5 品質管理（保証）研修
- 6 コミュニケーション能力、人権研修
- 7 人事・労務管理研修 等

3. 自己啓発支援

- 「通信教育受講講座」の開設と修了者への費用の一部援助
- 公的資格取得の支援
- 「オンライン英会話」の開設（継続）と費用の一部援助 等

4. グローバル人材の育成

グローバル経営の推進のためには、国際的に競争力のある製品の開発とビジネスの国際化が必要であることはいうまでもありませんが、それに加えて重要なことは、グローバルに活躍できる国際的な人材の育成です。

当社では、国内、国外を問わず、海外と関係するビジネス領域で多様な関係者と良好な関係を築き、当社のグローバルな事業展開の中心的な役割を果たして、成果を出すことができる人材の育成を目的として、以下のような「グローバル人材育成プログラム」を策定し、計画的・効果的な研修を展開しています。

〈プログラム〉

- 海外事業要員候補者の人選と個別育成計画の作成



- 海外出張の計画的実施 (含.海外での学会・展覧会等への派遣)
- 海外赴任の計画的な実施
- 語学力の強化 (社内英会話研修、海外赴任予定者の個人レッスン等)

〈グローバル事業要員の育成〉

〔育成内容〕

- 英会話能力 (業務の必要性に応じて多言語含む)
- ビジネスライティング能力
- 業務基礎知識 (クリティカルシンキング、マーケティング等)、コミュニケーション能力、異文化理解、マネジメントおよびリベラル

アーツの習得を目標に、外部講師によるゼミ形式での研修を毎月実施

- 異文化体験研修

〈その他〉

- TOEIC試験の定期実施
- オンライン英会話の導入・実施



英語プレゼンテーションスキルセミナー

働きやすい環境づくり

女性活躍推進に向けた人事諸施策の検討・実施

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

計画期間: 2020年4月1日～2025年3月31日 (5年間)

- 目標1** 課長相当職以上の女性社員の割合を、3ポイント以上増加させる。

〔対策〕

- 職場風土と女性のキャリア意識の現状分析、問題点抽出を行う。
- 意識啓発を目的とした研修プログラムを検討し、実施する。

- 目標2** 製造部門 (間接補助業務を除く) に女性スタッフもしくは管理社員を1名以上配置する。

〔対策〕

- 女性を配属する上での課題について把握し、解決策を検討する。
- 女性が活躍できる職場であることについての求職者に向けた積極的広報。
- 配属後の定期フォローアップ・ヒアリングの実施。

- 目標3** 男性社員のうち、配偶者が出産した男性社員に対する育児休業取得率を7%以上とする。

〔対策〕

- 育児休業取得に関するアンケートを実施し、育児休業制度のニーズを調査する。
- 職場と家庭の両方において男女ともに貢献できる職場風土づくりに向けた意識啓発。

60歳定年後の再雇用制度

当社では、60歳定年退職者で就業を希望される方について、再雇用制度を設けており、皆さんの知識・技能や経験を活かし、「業務効率化」や「後継者の育成」などに寄与していただいています。

育児・介護支援策

当社では、従業員のワークライフバランスの推進、女性社員のより積極的な活用・継続就業への支援を図るために、出産、育児、介護に関わる各種制度を導入しています。

- 育児休業制度
- 介護休業制度 (法定の通算93日を上回る通算365日取得可能)
- 育児、介護短時間勤務制度、配偶者出産休暇等

障がい者雇用促進

当社では、障がい者に対する雇用機会の創出を重要な課題ととらえ、公的機関等との連携をとりながら、障がい者の雇用促進を図っています。

メンタルヘルス対策

当社では、従業員の心身の健康づくりを充実させる一環として、メンタルヘルス対策を実施しています。

- 「ストレスチェック制度」による自己診断 (毎年1回実施)
- 必要に応じた産業医、看護師による面接指導の実施
- 専門医による「メンタルヘルス研修会」の開催
- ラインケアの充実、外部講習会への参加等

人権尊重・ハラスメント防止

当社では、階層別研修時の機会や講演会、更にはラインを通じた個別指導等により、人権尊重やハラスメント防止に向けた取り組みを展開しています。

良好な労使関係の維持・発展

当社の労働組合とは、お互いの立場を尊重しながら、企業の更なる発展と従業員の成長、より働きやすい職場環境づくりに向けた諸施策に、労使共同で取り組んでいます。

具体的には、年2回の「労使経営協議会」や月例の「労使会議」あるいは個別テーマでの「労使間の委員会」等の場を活用しながら、労使の相互理解・共通認識の形成に努めています。



労使協賛社内ボウリング大会



労使協賛スキーツアー



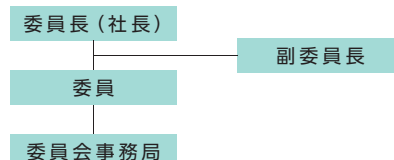
コンプライアンスへの取り組み

コンプライアンスへの取り組み

田岡化学は、社会の一員としてコンプライアンス（国内外の諸法令・社則および社会倫理の遵守）と自己責任に基づいた企業活動を行うことを自らの社会的責任と考え、当社のコンプライアンス体制の拠り所となる基本的精神として「田岡化学企業行動憲章」を制定しています。

当社はこの行動憲章の精神に則り、コンプライアンス重視の経営の確実な実践と推進に取り組んでいます。

コンプライアンス委員会構成



田岡化学企業行動憲章

1. 住友化学グループの一員として、世の中から尊敬される「よき社会人」として行動する。
2. 国内外の法令を守り、会社の規則に従って行動する。
3. 社会の発展に幅広く貢献する有用で安全性に配慮した技術や製品を開発、提供する。
4. 無事故、無災害、加えて地球環境の保全を目指し、自主的、積極的な取り組みを行う。
5. 公正かつ自由な競争に基づく取引を行う。
6. 健康で明るい職場づくりを心がける。
7. 一人ひとりが、それぞれの分野において、高度な技術と知識を持ったプロフェッショナルになるよう研鑽していく。
8. 株主、取引先、地域社会の方々等、企業を取り巻く様々な関係者とのコミュニケーションを積極的に行う。
9. 国際社会の一員として、世界各地の文化・慣習を尊重し、その地域の発展に貢献する。

以上の行動指針に基づく事業活動を通じ、会社の健全な発展に努める。



田岡化学 企業行動マニュアル

Voice



淀川工場
総務人事室
副室長
西田 勝彦

誰もがより快適に働けるように更なる職場環境の向上に努めます。

Production sites

工場・関連会社の取り組み

淀川工場

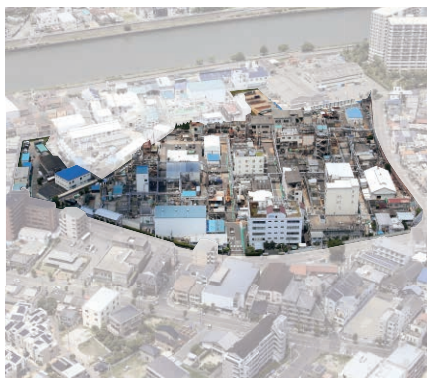
【所在地】

大阪市淀川区西三国四丁目2番11号

【従業員数】

184名(2020年9月30日時点)

主な事業内容／医・農業中間体、高機能性樹脂、電子材料、合成染料等の精密化学品と接着剤、ゴム用添加剤等の機能性材料を製造しています。



淀川工場



事務研究棟(研究施設強化に向け改装中)

淀川工場は当社の主力工場であり、約1万坪の敷地内には製造部門、研究部門、関連会社が入っております。「品質、安全、環境に関する経営方針」に基づき「安全をすべてに優先させる」ことを基本に環境関連法規の遵守は言うにおよばず、環境保全の継続的改善に努め、資源

の有効利用と廃棄物の削減を推進しています。また、地域とのコミュニケーションを図り、社会に貢献できる工場を目指して、事業活動に取り組んでいます。

2004年には国際環境マネジメントシステムISO 14001の認証を取得しました。

環境保全への取り組み

2004年に蓄熱式脱臭炉を設置し、臭気、VOCを含んでいる工場排ガスを燃焼処理しています。また、排水管理強化として、従来の環境監視測定室を拡張し、従来のTOC測定器に加えて、APHA、ヨウ素価、フェノールの測定器を設置、24時間監視を行っています。また、それら装置はDCSと連動させ、異常時には自動的に排水放流を中止するようシステムを構築しています。地球温暖化対策として、省エネ委員会を設置、エネルギー使用量、CO₂の削減に向けた啓蒙活動、設備改善に積極的に取り組んでいます。



脱臭炉



DCS画面



緊急時排水回収設備



環境監視測定室



TOC計



ヨウ素自動測定器・フェノール自動測定器



淀川工場の藤棚（構内）



播磨工場の構内の一部

播磨工場 播磨地区・愛媛地区

【所在地】

兵庫県加古郡播磨町宮西2丁目10番6号
愛媛県新居浜市大江町1丁目1番

【従業員数】

112名（2020年9月30日時点）

主な事業内容／可塑剤、紙用加工樹脂、機能性樹脂、低級アルコールエステル類、スーパーエンブラ、絶縁ワニス等、多岐にわたる精密化学品を生産しています。



播磨工場 播磨地区



播磨工場 愛媛地区

播磨工場は、播磨地区と愛媛地区に生産工場を持っています。2002年にISO14001（環境）認証を取得し、その認証を継続するとともに、環境方針の基本を「事業活動のあらゆる面においてコンプライアンスに徹し、感覚公害を含む地球環境の負荷の最小限化と、従業員および地域住民の安全と健康の確保に努め、快適で豊かな暮らしの実現と社会の持続的な発展に貢献する。」と定め、継続的改善に取り組んでいます。2012年には臭気への対

策として脱臭炉の設置や移動式排煙車を導入しました。また、2013年には省エネと緊急時の電力確保を目的にガスコージェネレーションシステムの設置を完成させ、環境と安全への対策をより一層強化しています。

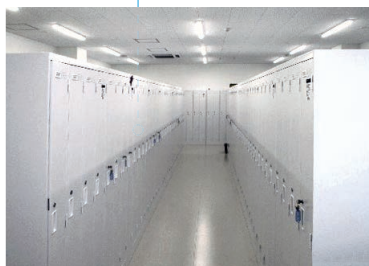
経済活動と環境保全の両立を目指し、関連法規制や地域環境保全協定値遵守はもちろん、更なる向上に努め、地域社会や住民の皆様から安全・安心で信頼される工場を目指して取り組んでいます。

環境保全への取り組み

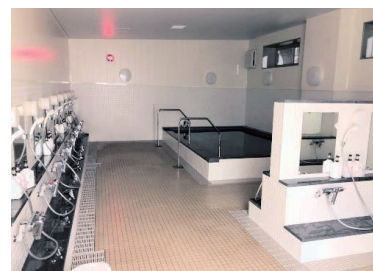
当工場は、瀬戸内海の臨海地区に位置します。環境では、「水濁法」「大防法」「廃掃法」「瀬戸内法」「兵庫県条例」「環境保全協定」等の関連諸法を遵守し、日々、環境保全の確保に努めています。また、日本化学工業協会に加盟し、RC推進部で環境パフォーマンスの公開や地域対話を通して、積極的に情報公開するなど、地域社会の皆様との様々なコミュニケーション活動の強化を図っています。



厚生棟 外観



男子更衣室



男子浴室

播磨工場 厚生棟完成

2020年5月末、播磨工場で厚生棟が完成しました。当工場では、2017年7月に完成した新規プラントの稼働に伴い、操業オペレーターが増加し、更衣室・浴室が手狭で不便な状態が続いておりました。この度、厚生棟の完成により、各所に点在していた更衣室を集約し一新するとともに、会議スペース、洗濯室の併設等、厚生施設の充実化を進め、より快適な製造環境を構築することができました。これを機に更なる生産性の向上に向けて取り組んでまいります。

Production sites

工場・関連会社の取り組み

株式会社田岡化学分析センター

【所在地】

本社 大阪市淀川区西三国4丁目2番11号
兵庫事業所 兵庫県加古郡播磨町宮西2丁目10-6
東京営業所 東京都中央区日本橋小網町1番8号
茅場町高木ビル

【従業員数】

34名（2020年9月30日現在）

主な事業内容／計量証明事業（濃度、騒音、振動）、作業環境測定、建築物飲料水質検査および土壤汚染対策法に基づく指定調査機関の事業登録を受け、受託試験を実施しております。その他アスベスト分析、農薬分析、有機溶剤分析、ガス成分分析、および各種分析試験法の検討を受託しております。



本社



兵庫事業所（分析室）

株式会社田岡化学分析センターの経営理念は、『顧客が満足し、安心できる信頼性の高いサービスを提供することにより、分析業務をととして社会に貢献すること』であり、1977年の設立以来、お客様とともに、人にやさしい環境づくりを高度な分析技術でバックアップしてまいりました。その過程では、2001年にISO14001の認証を取得、2008年にISO9001の認証を取得し、より有

効なマネジメントシステム構築による信頼性の向上を図っております。当社は、作業環境測定、排ガス測定、排水分析、アスベスト分析、土壌分析の他、危険物判定試験、組成・構造解析等にも力を注ぎ、お客様の課題・問題解決に取り組み、分析面からその後のコンサルティングまでをトータルにサポートしています。

環境・材料試験部について

法規制の分析として、排水、産業廃棄物、土壌、飲料水、ガス（大気、作業環境測定、土壌ガス）等のご依頼に対応しております。また、ガスクロマトグラフ、液体クロマトグラフ、ガスクロマトグラフィー質量分析計、蛍光X線分析装置などを用いて、下記の分析業務を行っています。

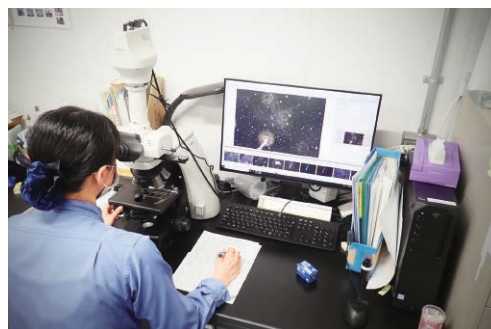
- ① 異物分析：試料中の微量無機・有機成分の特定・推定
- ② 組成構造解析：試料中の成分組成比分析、定性分析
- ③ 一般分析：試料中の特定成分定量分析
- ④ その他：試験法の作成、分析法バリデーション等



自動熱量計による化学品分析



GC/MSによる揮発性有機化合物の分析



位相差分散顕微鏡によるアスベスト分析

田岡淀川ジェネラルサービス株式会社

【所在地】

大阪市淀川区西三国4丁目2番11号

【従業員数】

59名（2020年8月1日現在/嘱託、パート等を含む）

主な事業内容／

① 物流関係

- 原料、包装資材等の受け入れ、検収および在庫管理
- 製品の入庫、出荷および保管管理、製品・原料の輸送管理等
- 産業廃棄物の構内運搬、保管、出荷、払出等
- 排水処理、廃棄物処理、構内での造園・園芸・植栽・清掃等
- 製造部からの受託業務（原料・廃棄物のローリー受払い業務等）



SVS-1 テクノダイナミクス梱包作業場



田岡淀川ジェネラルサービス株式会社事務所

② 充填・包装関係

- 染料の配合・充填包装、ゴム薬、樹脂原料、医薬・農業中間体等製品の充填・包装作業
- 新規樹脂原料の充填・包装等の受託業務拡大および合理化推進

③ 接着剤（シアノボンド・テクノダイナミクス）関係

- 接着剤バルク生産、出荷作業、営業受注業務
- 1液エポキシ樹脂充填、梱包・出荷作業

田岡淀川ジェネラルサービス株式会社は、2013年4月に旧田岡サービス（1986年4月設立）の地域特殊性を活かした機能強化と業容拡大を目的として淀川と播磨にそれぞれジェネラルサービス株式会社として分社化した形で、田岡化学工業株式会社淀川工場内に設立されました。

資本金は全額田岡化学工業株式会社出資で10百万円です。

労働安全OSHMS、環境ISO14001および品質ISO9001等の事業活動は田岡化学工業株式会社の一組織として日々着実に取り組んでいます。

環境保全への取り組み

【1】物流関係

入出荷作業の効率化のため、配車計画の適正化に取り組んでいます。また保管料削減や物流コスト削減等の合理化にも積極的に取り組んでいます。1液エポキシ出荷業務の効率的な運用により物流費の削減を行っています。輸入パレットのリサイクル使用や製品汚染防止シートの薄膜化による省資源活動にも取り組んでいます。

【2】省エネ活動

省エネ、地球温暖化対策として、事務所や現場管理室の電灯をLED照明に変更したり、不要電灯やパソコンの消灯等で無駄なエネルギー使用、CO₂の削減に取り組んでいます。2020年中に1液エポキシ製品保管用冷凍コンテナを適正な冷媒を使用したタイプに更新予定です。

【3】安全衛生・インフラ環境整備

新IT活動を通じて、ヒヤリハット活動や改善活動により、安全対策の強化および各種作業および作業環境の改善、設備整備を推進し安全正短な職場づくりに注力しています。新規雇用者に正しい作業を早く覚えてもらうために動画による手順書づくりを進めています。

【作業改善】

- D-3工場テクノダイナミクス充填作業において充填ポンプを超音波洗浄機を導入し、作業環境改善を図りました。
- C-1工場ラクラクハンドによる重筋作業の削減を図りました。

【4】外国人技能実習生の受け入れ

2019年8月より2名のベトナム人技能実習生を受け入れ、シアノボンド・1液エポキシ製品の梱包作業に従事してもらいました。併せて学科試験、実技試験の指導も行い、2020年4月に基礎級技能検定に二人とも合格し残り2年間、引き続き実習を行ってもらうことになりました。（上段の集合写真の最前列中央の2名（向かって左から）ナムさん（22歳）、ハイさん（26歳））



C-1工場 ラクラクハンド作業



テクノダイナミクス充填ポンプの超音波洗浄機

目次	文章・記録の名称	
1	共通 フレコンの準備作業(7分30秒)	フレコンの準備作業(7分30秒)
2	共通 フレコンの準備作業(縮小版)	フレコンの準備作業(縮小版)
3	共通 フレコンの上部取付	フレコンの上部取付(2分30秒)
4	共通 フレコン 筒の結び方	フレコン 筒の結び方(1分30秒)
5	共通 ロット番号と連番の印字作業	ロット番号と連番の印字作業(1分)
6	1線 TACR PCL 充填作業	TACR PCL 充填作業(1分)
7	2線 紙袋Cタイプラベル貼り付け	紙袋Cタイプラベル貼り付け(1分)
8	2線 紙袋充填・パレット積み込み	紙袋充填・パレット積み込み(1分)
9	2線 紙袋への充填作業	紙袋への充填作業(1分)
10	2線 フレコン充填の数量検出	フレコン充填の数量検出(1分)
11	2線 1袋 20kg×4袋 充填作業	1袋 20kg×4袋 充填作業(1分)
12	1線 TACR PCL 充填作業	TACR PCL 充填作業(1分)
13	4線 TACR PCL 充填作業	4線 TACR PCL 充填作業(1分)

動画 (VTR) による手順書例



D-3工場 異物混入防止対策

工場・関連会社の取り組み

田岡播磨ジェネラルサービス株式会社

【所在地】

兵庫県加古郡播磨町宮西2丁目10番6号
田岡化学工業(株) 播磨工場内

【従業員数】

36名 (2020年8月1日現在/嘱託、パート等を含む)

主な事業内容／

① 物流関係

原料、資材の受け入れ検収と在庫管理および原料、製品の出入庫と出荷作業を含めた構内物流の全般

② 充填・包装関係

可塑剤、加工樹脂、中間物等の充填・包装作業等



田岡播磨ジェネラルサービス(株)事務所

③ 環境・安全衛生

廃棄物処理、構内清掃等作業服・安全靴在庫管理、作業服洗濯業務

④ 製造受託業務

田岡化学工業(株): 播磨工場の製造工程(電子材料)



デバンニング作業



洗濯業務

田岡播磨ジェネラルサービス株式会社は、2013年2月に新たな企業として設立され、同年4月より、田岡化学工業株式会社播磨工場内での業務を本格的に開始しました。当社は、播磨工場への生産支援およびサービス機能を向上させるとともに、田岡化学グループ全体の効率的な運営に努めています。

また、みんなの願いであるゼロ災継続はもとより、品質、環境、防災への取り組みも播磨工場の一組織として着実かつ継続的に推進しています。

当社は、これからも従業員・地域社会・顧客に安心していただける信頼される会社として事業を継続してまいります。

環境保全への取り組み

【1】 物流関係

- 輸送形態を10トン車から、より大量輸送が可能な20フィートコンテナやISOコンテナに変更するなど、トータル輸送削減を図ることで環境負荷を低減するとともに、効率的な物流に実績を上げています。

【2】 省エネ活動

- 省エネ、地球温暖化対策として、事務所、倉庫の照明設備LED化、空調管理温度の徹底や冷凍倉庫内温度の適正化等を実施しています。



出荷作業(冷蔵車)

【3】 廃棄物削減への協力

- 廃棄物排出事業者(田岡化学)の責任において保管および排出管理を適切に支援しています。また、廃棄物3R推進にあたっては、RC室のご指導のもと、当社においても積極的にリサイクルを推進し、廃棄物削減を行っています。

【4】 安全衛生・インフラ環境整備

- デバンニング作業では安全かつ効率的な運用を継続しています。兵庫県内での輸入貨物コンテナ内でのヒアリ発生事例を受け、県民局による「ヒアリ講習会」に出席し、社内でも注意点について周知を行いました。
- 工場の稼働が順調なことで原料準備が増加する中で、安全を確保したうえでの『ムリ・ムラ・ムダ』の無い原料の手配や工場への原料準備を実現させました。今後も横持ち運賃の合理化を進めていきます。
- ワニス増産に伴い設置された危険物冷凍倉庫は将来的には、出荷作業回数が現状の5倍以上になる見込みの中で、安全を確保しながら倉庫管理も含めた運用の最適化を図っていきます。

田岡播磨ジェネラルサービスは、今後更に播磨工場全体の安全と合理化につながるよう一体となって努めていきます。



EL工場作業

Taoka Chemical India Pvt. Ltd.

【所在地】

インド タミール州 チェンナイ市
マドラス輸出特別区

【従業員数】

31名（2020年9月末現在）

主な事業内容／田岡化学工業(株)の技術をもとに瞬間接着剤の製造および販売を行っており、安定した操業を継続しています。製品は、インド国内、米国、西アジア、中央アジア、東南アジア、日本等に出荷しています。



タオカケミカル インド工場事務所



従業員一同

Taoka Chemical India Pvt. Ltd.は、2002年に合併会社として設立されました。

工場は、チェンナイ市の輸出特別区Madras Export Processing Zone (MEPZ) にあります。チェンナイ市は、南インドの玄関口としてベンガル湾岸の重要な港湾都市

であり、美しいビーチと寺院で知られています。

タオカケミカル インドでは、安全をすべてに優先させることを基本に、高品質の製品を提供し、総合的に顧客満足を得ることを方針として事業活動を行っております。

安全衛生への取り組み

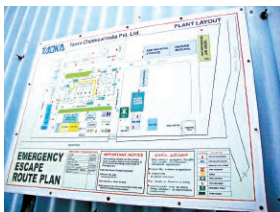
毎年、全従業員を対象に、専門トレーナーによる安全衛生の教育を実施しています。



全従業員を対象とした社内研修

保安防災への取り組み

危険物取り扱い等の安全教育の他、防災訓練を行い、意識の高揚と技術の練磨に努めており、操業開始以来、休業災害は発生しておらず、これからも無災害継続に向けた取り組みを進めていきます。



避難経路と避難場所



環境保全への取り組み

タミール州環境局 (TNPCB) の指導のもと、排出ガス、産業廃棄物等、適切な管理を行っています。工場電源もディーゼル自家発電から高圧買電に変更し、環境改善をしております。また、新たな排水処理設備も導入し、要求される排水規制値を遵守しています。



排水処理設備

本社レスポンシブル・ケア室による レスポンシブル・ケア監査

従来から実施していた工事後の安全監査に加えて、レスポンシブル・ケア監査をはじめとして、本社からの品質監査や内部監査も実施しています。



建設中の
新原料倉庫





田岡化学工業株式会社

本社 〒532-0033 大阪市淀川区新高3丁目9番14号(ピカソ三国ビル7階)
TEL (06)7639-7400(代) FAX (06)7639-7404

Taoka Chemical Co.,Ltd.

Head Office: 3-9-14 Niitaka, Yodogawa-ku, Osaka 532-0033
Tel:(06)7639-7400 Fax:(06)7639-7404

ホームページ <https://www.taoka-chem.co.jp>

